（歴総705）「私たちの歴史総合　指導と研究」〈指導書編〉

（2022年3月15日　初版発行）

以下の通り，当該書籍の内容を訂正していただくよう，お願い申し上げます。
謹んでお詫び申し上げますとともに，ご訂正のうえご指導くださいますようお願い申し上げます。

2023.7

ページ	箇所	誤	正
55	資料5 解説 1～20行目	**■資料5　ドイツ帝国の成立**　普仏戦争中のヴェルサイユ宮殿「鏡の間」で行われたドイツ皇帝の即位式の絵は，白い軍服で式辞を読み上げるビスマルクとサーベルをかかげて万歳を連呼する将校団に対し，壇上の諸王や諸侯の表情はどことなくさえない。プロイセン国王を皇帝に推挙するためにわざわざ集められたザクセン王やバイエルン王，諸侯たちの表情がさえないだけでなく，皇帝となる中央の白い髭をたくわえたプロイセン王まで嬉しそうではない。これには理由があり，プロイセン王は，「ドイツ皇帝」という呼称はプロイセン王国を吸収したようで嫌なので「ドイツラントの皇帝」に替えろと前日から言い出した。ドイツ皇帝の呼称ですでに式典の準備を終えていたビスマルクは，今更替えられないと何とか説得し，式に臨んだヴィルヘルム1世は泣きたい気分だと言っていた。こうしてなかば強引に式を行ったビスマルクは，この直後，降壇した皇帝に無視されたという。ちなみに，ヴィルヘルム1 世は，君主は同格であることを示すために他のドイツ諸侯たちも壇上に上げた。	**■資料5　ドイツ帝国の成立**　ドイツ皇帝の即位式は，普仏戦争でのパリ攻囲戦の最中にヴェルサイユ宮殿「鏡の間」で行われた。この絵では，右側にサーベルをかかげて万歳を叫ぶ将校団が描かれ，ドイツ統一を喜ぶ民衆を想起させると同時に，成立したドイツ帝国の軍国主義的性格をも想起させる。一方，壇上のドイツの領邦君主たちは，バーデン大公が手を挙げて万歳の音頭をとっているものの，さほどの盛り上がりを見せていない。そもそも領邦君主たちは，ビスマルク（絵の中央，白い軍服姿で強調）が主導するプロイセン優位の統一に前向きではなかった。とりわけ南ドイツ諸邦は普墺戦争でオーストリア側についた経緯もある。普仏戦争で人々のナショナリズムが高揚する中，ビスマルクが南ドイツ諸邦の引き入れ工作を進め，ドイツ帝国は諸邦の君主がプロイセン王を皇帝に推戴する形をとって成立することになった。しかし，すでに70歳を過ぎ，頑迷なヴィルヘルム1世自身も即位に抵抗し，式典の前日に「ドイツ皇帝」という呼称はプロイセン王国を吸収したようで嫌なので「ドイツラントの皇帝」に替えろと言い出すほどであった。すでに準備を終えていたビスマルクに今更替えられないと説得され，ヴィルヘルム1 世は泣きたい気分だと述べたという。
同上	同上 22～23 行目	そもそも<u>ザクセン王やバイエルン王</u>からすれば	そもそも<u>領邦君主たち</u>からすれば